

「記紀・万葉」を施策に活用していくために

—— 奈良県職員のための「記紀・万葉プロジェクト」基礎知識集 ——

平成23年3月

記紀・万葉プロジェクト検討委員会

—目 次—

はじめに	1
1. 「記紀・万葉プロジェクト基本構想」の概要	3
2. 記紀・万葉についての基礎知識	5
3. 記紀・万葉を施策に活かすためのヒント	13
4. 記紀・万葉を取り扱う際の留意点	16
5. 関連施設・ホームページ	18
6. 記紀・万葉プロジェクト検討委員会、同推進チーム会議	19

はじめに 本基礎知識集発刊の趣旨

❖ 2011 年 2 月、「記紀・万葉プロジェクト基本構想」を策定

- 来たる平成 24(2012)年は『古事記』が完成して 1300 年、さらに平成 32(2020)年は『日本書紀』が完成して 1300 年という節目の年にあたります。『古事記』『日本書紀』編纂の地・奈良県では、これらの文献をはじめ本県特有の歴史素材を活用した施策を効果的に推進するため、昨年 2 月に庁内連携組織「記紀・万葉プロジェクト検討委員会」を立ち上げ、同推進チームを中心に調査、討議、検討作業を進めてきました。
- このたび、1 年間の取組みの総括として「記紀・万葉プロジェクト基本構想」を策定し、本年 2 月にこれを公表したところです。なお、同構想については、プロジェクト推進に当たっての理念、目的、基本的な考え方などをとりまとめたものであり、具体的な事業内容等については、今後も随時発表していく予定です。

❖ なぜ、県職員が「記紀・万葉」の基礎知識を？

- ところで、皆さんは『古事記』『日本書紀』『万葉集』と聞いてどのような印象を持たれるでしょうか。特に『古事記』『日本書紀』については、これまであまり親しむ機会がなかった方が少なくないのではないかと思います。実は、推進チームのメンバーの多くもこのプロジェクトを担当するまで『古事記』や『日本書紀』を読んだことがなく、「なんとなく難しそうで敷居の高い書物」との印象を持っていました。
- しかし、本県特有の歴史素材を活用した施策を推進していくためには、『古事記』『日本書紀』『万葉集』などの文献に関する基礎的な理解が必要です。また、はじめの「とっつきにくさ」とはうらはらに、『古事記』『日本書紀』『万葉集』はいずれも、現代にも通じる古代の人々の心の機微や古代の原風景をありありと思い起こさせるような、とても面白い読み物なのです。

❖ 「奈良県ならではの」施策展開への第一歩に

- そこで、私たちは職員の皆さんに少しでも「記紀・万葉」への興味を持っていただきたいと考え、この『奈良県職員のための「記紀・万葉プロジェクト」基礎知識集』を作成しました。ぜひお目通しいただければと思います。

- そして、できれば「記紀・万葉」を手がかりに、歴史素材を活かしてそれぞれの担当業務をより効果的に推進する手法をご検討いただき、また、その手法を実際の施策にどんどん活用してほしいと思います。そうした取組みを県内外に効果的に情報発信していくことが、「記紀・万葉プロジェクト」の重要な役割なのです。
- この基礎知識集を、「記紀・万葉」への理解と、歴史を活用した施策検討の第一歩としてお役立ていただければ幸いです。
- なお、この基礎知識集は「記紀・万葉プロジェクト」での現時点までの取組みをとりまとめたものです。今後、より役立つものとなるようバージョンアップしていきたいと思いますので、どうぞお気軽にご質問、ご感想等をお寄せください。皆さんからのご意見をお待ちしております。

記紀・万葉プロジェクト検討委員会

※なお、「基本構想」では、「記紀・万葉」を『古事記』『日本書紀』『万葉集』及び伝承に代表される歴史素材を示す言葉として、『古事記』『日本書紀』『万葉集』という文献を示す「記紀・万葉集」とは区別して用いています。

1.「記紀・万葉プロジェクト基本構想」の概要

1. 定義・目標と基本的な考え方

<本プロジェクトの定義>

・「記紀・万葉プロジェクト」は、記紀・万葉集に代表される奈良県特有の歴史素材を活用した行政施策を効果的に展開していくものであり、新しい時代に奈良県の存在価値を内外に示すとともに、「本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良」を名実ともに実現していくための取組みです。

・本プロジェクトが目指す「本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良」の実現とは、長い年月をかけて守り伝えられてきた県内各地の様々な歴史的遺産を、奈良県に住まい、あるいは奈良県を訪れる人びとにとって、その真価を十分に理解でき、感動を味わえるものとすることです。知らずに見ればただの草原や田畑にすぎない風景でも、その場所にまつわる歴史や伝承を知った人が見れば、そこに全く違う古代の風景が立ち現れてくるはずであり、その体験を通じて歴史に対する興味を深め、感動を味わうことが、本プロジェクトで言うところの「本物の古代と出会い、本物を楽しむ」ということなのです。

<目標>

本プロジェクトでは、国際的視点も加味した「古事記」「日本書紀」「万葉集」についての価値意識を醸成するとともに、「記紀・万葉」を実感する地・奈良の受け皿を整備して「記紀・万葉で楽しむ県」「記紀・万葉と暮らせる県」という奈良県の「新しいブランドイメージ」を創出することを念頭におき

- ① 奈良県が歴史情報の発信のしかたとその味わい方の提案に関するリーダー的存在となる
- ② 歴史素材の多角的な紹介により、奈良県の魅力の再発見、地域の誇りの醸成につなげる
- ③ 奈良県への誘客を促進し、顧客満足度を高めることを目標に掲げるものといたします。

2. 構想推進にあたっての留意点

- ① 「歴史」と施策・事業などの取組みをつなぐ
歴史情報を収集・調査分析し、発信のためのテーマ付与手法を開発して関係機関に情報提供、「奈良県の歴史」と施策・事業などの取組みとをつなぎます。

- ② 「ニュートラルな立ち位置」を確保する

記紀・万葉集は様々な学術分野の研究対象となっており、その解釈には様々な議論があります。また、かつて皇国史観による国威発揚に用いられた経緯もあり、特に記紀についてはこれまで広く一般の人びとに親しまれたものであったとは言えません。従って、行政として記紀・万葉集を扱う際には、特定の考え方や学説に偏ることなく、それぞれの論拠や出所、発信者等を明らかにして、ニュートラル(中立的)な立ち位置から、諸説の並列的・列記的発信を行うよう努めます。

- ③ 「多様な視点」からの情報発信を行う
- ④ 学術研究機関との「人的ネットワーク」を構築する



3. 事業計画

<計画期間>

平成24(2012)年は「古事記」が完成して1300年、平成32(2020)年は『日本書紀』が完成して1300年あたり、これら2つの節目の年をつないで、9年に及ぶ長期のスパンでプロジェクトを展開します。

<平成23年度事業について>

平成23(2011)年度は、県内外に対するシンポジウム・フォーラムの開催等の情報発信事業を中心として、有識者・研究者からの聞き取り調査等幅広い関連情報の収集と整理を進め、県が主体となつて推進する「記紀・万葉」関連事業の方向性と考え方を確立。併せて、奥深い情報の蓄積による本県の歴史的な強みを存分に引き出すための下地を醸成します。

<平成24年度以降について>

《平成24年度》

古事記完成1300年の記念年である平成24(2012)年度には、平成22、23年度において蓄積した情報と確立した方向性をもって、各種主体が幅広い「記紀・万葉」素材を活用し、本格的な事業展開を図るべく、今後引き継ぎ事業メニューについての検討を行います。

《平成25年度以降》

平成25(2013)年以降は、平成32(2020)年を視野に入れた長期的な事業展開を意識しながら、前年度までに収集した情報を次年度の発信事業に活かすという考え方に基つき、年度ごとに実施すべき事業を検討します。

4. 今後の検討課題

- ① 市町村、地域団体との連携についての検討
- ② 記紀・万葉集にゆかりのある他府県との連携の検討
- ③ 部局横断型組織による庁内ネットワークの強化
- ④ プロジェクトの「キャッチフレーズ」等の検討

記紀・万葉集をはじめとする文献には、日本文化の源流につながる様々な記述があり、ゆかりの地は全国各地に存在します。それ故、「記紀・万葉プロジェクト」を端緒にして、奈良県のみならず日本列島の様々な地域の人びとの「自分たちの住む地域の魅力再発見」につなげることを目指したいと考えます。皆が愛着を持つてふささることを語るようになれば、日本はもつと豊かな国になるでしょう。本プロジェクトの推進が、閉塞感漂う我が国を元気にするために本県として貢献できるものとなるよう取り組んでまいりたいと思います。



平成23年2月 奈良県 記紀・万葉プロジェクト検討委員会（事務局：奈良県ならの魅力創造課）

※詳しくは、ウェブ公開版をご覧ください。

記紀・万葉プロジェクト基本構想 www.pref.nara.jp/secure/59291/kikitihonkousou.pdf

「記紀・万葉プロジェクト」推進の4つのプロセスと長期的展開戦略

- ◆ 古事記完成1300年(2012年)と日本書紀完成1300年(2020年)をつなぐ長期プロジェクト。
- ◆ 年度ごとに、①～④の「4つのプロセス」を意識して事業を検討。
- ◆ 各年度で情報カテゴリやターゲットを変え飽きられない工夫をするともに、情報の集積とPR手法の開発・集積においてリーダー的存在になることを目標に、長期的視野に立つて事業を展開。

4つのプロセス

素材：記紀・万葉集及び伝承についての関連文献(テキスト)

ヒト、モノ、コト、場所、エピソード……

① 情報収集・整理(情報のデータベース化、一元管理化)

● 記紀・万葉及び伝承関連データベースの一元管理

- (例示)
- 古蹟・陵墓
 - 万葉歌碑
 - ゆかり地(社、寺、城、地名……)
 - 民俗資料・考古資料(出土品)
 - 万葉花
 - 地域伝承
 - 民俗芸能
 - ……

② 魅力項目(ストーリー・テーマ・PR項目)の抽出(ターゲット別の項目の抽出を含む)

おもしろさ、魅力の創造、新たな切り口の発見

③ 魅力項目を伝え味わうくみを作成

- ③-A 地域再発見のためのしくみ
(例示) 遠足モデルルート作成、ガイドブック・パンフレット、ルートマップ、ホームページ、……
- ③-B ツール作成
(例示) ガイドブック・パンフレット、ルートマップ、ホームページ、……
- ③-C イベント企画
(例示) シンポジウム、多府県連携フォーラム、……
- ③-D その他
観光事業以外への歴史情報の活用、……

④ それぞれのターゲットに応じた情報発信

一般向け、民間事業者向けに、それぞれのターゲットに応じた情報を発信

当プロジェクトの目的

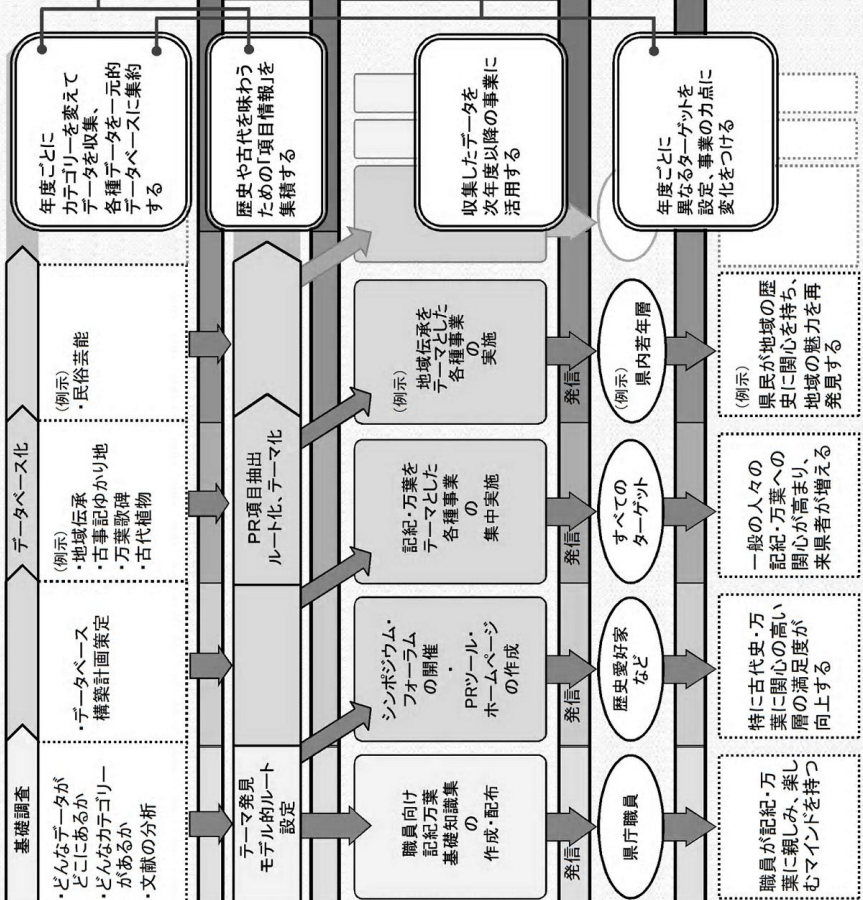
記紀・万葉及び伝承を切り口として下記の実現を目指す

本県が歴史情報やその味わい方提案力のリーダー的存在となる

地域の誇りの醸成

奈良県への誘客の促進

長期的視点での事業展開



古代の歴史情報の集積・発信リーダーを目指す

飽きられない工夫

2. 記紀・万葉についての基礎知識

(1) 記紀・万葉集の概要

- ここでは、『古事記』『日本書紀』『万葉集』について、Q&A方式でそれぞれの概要を紹介します。回答者は、推進チームのメンバーでもある、県立橿原考古学研究所の今尾総括研究員と県立万葉文化館万葉古代学研究所の井上主任研究員です。なお、これは奈良県のウォーキング・ポータルサイト「歩く・なら」から「記紀・万葉でたどる奈良」※の「基礎知識」を転載したものです。

※「記紀・万葉でたどる奈良」については12ページで紹介しています。

記紀編

『古事記』『日本書紀』 Q&A

回答者：奈良県立橿原考古学研究所・今尾文昭総括研究員

Q1 ずばり、『古事記』とは？

A 現存する最古の書物。ふつうは「こじき」ですが、「ふることぶみ」と読む説もあります。国土の創成神話から推古天皇までの3巻構成となっています。

Q2 なぜ作られたのですか？

A 『古事記』序文に編纂目的が記されています。それによると、

“諸家に伝わる記録や神話・伝承・歌謡に間違いが多く、虚偽も加わっている。天武天皇はこれら「邦家の経緯」（国家行政の根本組織）、「王化の鴻基（こうき）」（天皇徳化の基本）である『帝紀』（皇室の記録）と『旧辞』（神話・伝承・歌謡）を考究して、正しいことを後世に伝えるよう命じた。これをもって編纂事業が始まった”とあります。

Q3 『古事記』に関わった、主なキーパーソンを教えてください。

A 序文に記された人物は、稗田阿礼（ひえだのあれ）、太安万侶（おおのやすまろ）、天武天皇、元明天皇です。

Q4 編纂はどうやって進められたのですか？

A まず天武天皇は、側近で聡明な舍人（とねり：下級官人）の稗田阿礼に『帝紀』『旧辞』を暗誦させたのですが、時間が経過しても未完成のままでした。それを元明天皇が和銅4年（711）9月18日、阿礼が誦む勅語の『旧辞』の選録を太安万侶に命じ、翌年5年1月28日になって献上されたものです。もっとも、古事記序文の評価をめぐるは、成立年次や信憑性をめぐって論議が続いています。また稗田阿礼の暗誦も、文字化された資料の読み方について習熟する内容だったと推測されており、天武期段階である程度の編纂作業が行われていたのではないかとする見方もあります。

Q5 『日本書紀』を一言でいうと？

A

最初につくられた勅撰（天皇の命令により撰ばれた）の史書。
神代と神武天皇から持統天皇11年（697）までを、本文30巻、系図1巻（現在、亡失）に記しています。

Q6 どうやって編纂されたのですか？

A

編纂開始については、自ら本書中に記されています。
『日本書紀』天武天皇10年（681）3月17日条に、天武天皇が川嶋皇子・忍壁皇子ら12人に『帝紀』と上古の諸事（旧辞と同義か）を記定（異説を検討して史実を確定して記録する）するように命じたことに始まるとあります。

Q7 いつごろ完成したのですか？

A

奈良時代です。
『続日本紀』養老4年（720）5月21日条に、これより先に舍人親王が勅（みことのり）を奉じて編修し、完成、奏上したと記されています。

Q8 編纂の方針などに特徴はありますか？

A

『古事記』の編纂作業との関係は不明な点が多いですが、『日本書紀』の編纂にあたっては、『帝紀』・『旧辞』、諸氏族の記録、寺院の縁起、中国史書、百済関係記録などが参考とされ、記事には漢籍による潤色も認められます。
なお、『日本書紀』という名称ですが、『続日本紀』に「日本紀」と表記されることから、これが本来の名かとされる一方、中国史書には書紀の名称はみられません。
当時の「日本」として国威を示すためにも、紀伝体（きでんたい）の「書」が求められたものであって、本来は「日本書」ではなかったかとする説もあって、定説をみません。

Q9 影で政治を動かしていたといわれる藤原不比等は、『日本書紀』の編纂にも関わっていたのですか？

A

初めての正史編纂、しかも国号「日本」を東アジア諸国のとりわけ唐に認めさせようとした時代であったことから、奈良時代前期のトップの政治家である不比等の関与を想定したいところですが、考古学の方法でそれを直接、検討することはできません。

Q10 「記紀」に記されている内容は、どれくらい事実として確認されているのですか？

A

考古学の成果と「記紀」の記事を直接、比較できる事例は稀です。
大きく報道された例をあげると、2010年9月に明日香村教育委員会によって発掘調査された牽牛子塚（けんごしづか）古墳は、

- 埋葬施設が合葬を意図した二部屋の構造をもつこと
- 八角墳で畿内では7世紀代の天皇に限定的に採用された墳形とみられること
- 7世紀後半に採用された石材（二上山産出の凝灰岩）による埋葬施設である
- 7世紀後半に高位の人物に採用された棺（夾紵棺：きょうちよかん）があること

などといった発掘・調査成果と、

- 『日本書紀』天智天皇6年（667）条に斉明天皇が妹の間人皇女（はしひとのひめみこ：孝徳天皇皇后）と合葬されたという記事があること
- 陵名が「小市岡上陵」（明日香村から高取町にかかる丘陵上）と記載される
- 想定時期にはほかの有力候補者が見当たらないこと

などといった文献史料から、斉明陵であると考えます。ようやく考古学成果と「記紀」の記事内容がほぼ合致したといえます。それでも『続日本紀』（『日本書紀』につづく勅撰史書）文武天皇3年（699）条に斉明陵の改たな造営記事があって、これをどのように考えるか、問題が残ります。

牽牛子塚古墳の奈良県における最初の報告は1913年（大正2）ですので、ほぼ100年も前のこと。被葬者に関する研究には長い年月がかかります。

Q11 奈良にしかない「記紀」の魅力とは何でしょう？

A

「記紀」の編纂場所は奈良です。

例えば、天武天皇が『日本書紀』編纂を命じるために川嶋皇子らを招いた宮殿（『日本書紀』には飛鳥浄御原宮の「大極殿」とある）そのものが発掘調査されており、高市郡明日香村岡に所在しています。

しかも、当時の景観（山や川、丘陵）が、都市化をまぬがれて保存されてきました。

宮殿は地下に埋もれていますが、それも悠久の時間経過を気付く仕掛けとなっています。

孝徳天皇の難波宮は大阪市街地、天智天皇の近江大津宮は大津市街地にあることを思うと、歴史に即した古代の「体感空間」が、奈良にはあります。

この恵まれた歴史資産を活かしていきたい。「記紀」の記事はその入り口を示す道標となります。

万葉編

『万葉集』 Q & A

回答者：奈良県立万葉文化館（万葉古代学研究所）井上さやか主任研究員

Q1 そもそも『万葉集』とは何でしょうか？

A

日本に現存する最古の歌集です。約1400年～1300年くらい昔の歌が載っています。

全部で20巻あり、天皇や貴族だけでなく、兵士や農民まで、いろいろな人々が詠んだ歌が収められています。

Q2 全部でどれくらいの歌があるのですか？

A

約4,500首です。

『万葉集』には、奈良県内に政治や文化の中心地があった時代の歌が収められています。奈良の地名が詠みこまれた歌は、約900首とも。また、奈良県内で詠まれたと思われる歌をあわせると、大半が該当します。

まさしく、奈良は“万葉のふるさと”です。

Q3 『万葉集』をよむ楽しみとは？

A

『万葉集』には、季節（自然）、愛や恋、旅などをテーマにしたものから、笑いを誘う滑稽なものまで、実に多彩な歌があります。

その素朴で大らかな歌風は、現代に生きる私たちに親しみと共感を与えます。

人が抱く感情は、現代も1300年前も同じ。

社会通念や科学技術の発達具合こそ違いますが、「好き・嫌い」や「辛い・嬉しい」といったその気持ちの根っこは変わっていません。

そう考えると、これまでかけ離れた存在だった古代がとても身近に感じられ、生きるヒントを教えてもらうこともしばしばです。

『万葉集』は、私たちの普段の生活の中にも息づいています。
例えば、これまでただのバス停の名前だと思っていたところが、万葉歌に詠まれた地名であることを知って、「ここが、あの剣の池か！」などと驚くことも多々あります。
また、「ここを大伴家持が歩いたかも知れない」。そんなふうに想像を膨らませながら奈良を歩くと、楽しいですよ。
これまで気に留めなかった日常のディティールが“全く新しいもの”へと認識されてゆく。
それもまた、『万葉集』の魅力です。

Q4 古典が苦手です。取っ掛かりとなる、ユニークなものがあれば教えてください。

A

おすすめは「万葉仮名」です。
『万葉集』はまだ平仮名がない時代に書かれたので、漢字で表記されていました。
「万葉仮名」といって、漢字の音を仮名と同じようにして使っていたのですが、例えば「世の中」を「余能奈可」と書いていました。そして、この中から、今の平仮名が生まれています。
ではここで問題。「二八十一」と書いて、何と読むでしょう？
正解は、「にくく（憎く）」。「八十一」を掛け算で言い直すと「九×九」、つまり「くく」となるからです。まるで、なぞなぞみたいですね。
県立万葉文化館には、これら万葉仮名をはじめ、楽しみながら万葉集を知ってもらう「万葉クイズ」を用意しています。
これをきっかけに、『万葉集』の世界に足を踏み入れたという方もいらっしゃると思います。

Q5 「記紀歌謡」、「初期万葉」とは？ 『万葉集』とどう違うのですか？

A

「記紀歌謡」とは、『古事記』や『日本書紀』に採られた上代の歌謡のことで、物語の中にある歌です。
それだけに、「記紀」が記すエピソードごと味わう面白さがあります。
一方、「初期万葉」は文字通り、万葉集の中でも初期に作られた和歌のことで、歌自体が主役。「記紀歌謡」とは逆に、想像を膨らませて読む楽しみがあります。
耳慣れた「5・7・5・7・7」の五七調の歌が多く、理解もしやすいかもしれません。

Q6 万葉歌碑は、歌が詠まれたところに立っているのですか？

A

必ずしも、「万葉歌碑のある場所＝そこで歌が詠まれた」というわけではありません。その地名が現在のどこにあたるのか、そもそも地名と確定できるのかなど、不明な場合もあります。
昭和のころ、奈良の豊かな自然を守ろうと、犬養孝氏をはじめとする景観保全運動が起こり、その一環として万葉歌碑が立てられることもあったようです。
これらの尽力があったおかげで、今も私たちは、昔ながらの美しい景観を目にすることができます。万葉歌碑を見つけたら、当時の地元の方々の思いまでも味わう。そういった夢の追い方もあると思います。

Q7 万葉の世界に浸るためのアドバイスを。

A

その歌が詠まれた風景の中に身を置き、歌をよみ返すとよいでしょう。歌には、感情が投影されています。ある景色を詠んでいても、それはあくまでその万葉歌人が感じた情景。同じ景色でも、嬉しいときには風情があると感じ、辛いときには寂しく目に映ったに違いありません。ウォークルートを歩く際は、そういった万葉歌人の“心の豊かさ”を、体全体で感じ取ってみてはいかがでしょうか。現代にも通用する、生きるヒントが見つかるかもしれません。

- 記紀・万葉集の編者、完成時期、内容等は下の表のようにまとめることができます。

	古事記	日本書紀	万葉集
編纂者	稗田阿礼が語り伝えた『帝紀』『旧辞』を太安万侶がまとめる。	川島皇子、舎人親王(とねりしんのう)など。	勅撰説、橘諸兄説があるが、大伴家持説が有力である。
完成時期	和銅5(712)年	養老4(720)年	天平宝字(759)年以後
巻数・表記	上・中・下全3巻。日本語重視の変体漢文で執筆。	全30巻 系図1巻(系図は失われている)。漢文で執筆。	全20巻。全文が漢字だが、歌は日本語の語順で書かれた「万葉仮名」で表記。
内容・特徴	日本に現存する最古の書物。「ふることぶみ」と読む説もある。国土の創成神話から推古天皇までを記す。	日本で最初につくられた勅撰の史書。神代と神武天皇から持統天皇11(697)年までを記す。	日本に現存する最古の歌集。約1400年～1300年前の歌を収録。天皇や貴族だけでなく兵士や農民まで、いろいろな人々が詠んだ歌がある。
収録されているストーリー等	例) ● <u>ヤマタノオロチ</u> 出雲神楽で有名なスサノオのオロチ退治。 ● <u>やまとは国のまほろば</u> 各地を転戦した古代の英雄ヤマタケルが死を前にして詠った大和を讃える望郷の歌。 ● <u>因幡の素(しろ)うさぎ</u> 後の大黒様であるオオクニヌシと素うさぎの物語。 ● <u>五穀と養蚕の起源</u> スサノオに殺されたオオゲツヒメの身体から蚕・稲・粟・小豆・麦・大豆が生じた。	例) ● <u>聖徳太子</u> 十七条憲法の制定や小野妹子の隋派遣など。10人の話を同時に聞き分けた等の伝説も。 ● <u>大化の改新</u> 中大兄皇子(後の天智天皇)らが蘇我入鹿を暗殺し、新政権を打ち立てた事件。 ● <u>壬申の乱</u> 天智天皇の息子(大友皇子)と弟(大海人皇子)が皇位継承をめぐって争った古代最大の内乱。	例) ● <u>春過ぎて 夏来るらし 白たへの衣乾したり 天の香具山</u> (持統天皇) 地名を詠みこんだ歌。 ● <u>香具山は 畝傍ををしと 耳梨と相あらずひき 神世より かくにあるらし 古昔も 然にあれこそ うつせみも 嬌(つま)を あらずふらしき</u> (中大兄皇子) 大和三山に仮託した恋の歌。 ● <u>東(ひむがし)の 野にかざろひの立つ 見えて かへり見すれば 月かたぶきぬ</u> (柿本人麻呂) 大宇陀の狩場での日の出の情景を描いた歌。 ● <u>父母が 頭かき撫で 幸くあれて いひし言葉ぜ 忘れかねつる</u> (防人歌) 東国方言が使われた庶民の親子情愛の歌。

(2) 伝承について

❖ 記紀に取り入れられた民間伝承

- 記紀・万葉プロジェクトでは、地域に伝わる「伝承」も対象としています。例えば「やまとは 国のまほろば」の歌は、もともと大和の農村の生活に結びついた国見の歌であったものが、『古事記』では景行天皇の皇子ヤマトタケルの歌とされ、『日本書紀』では景行天皇の歌とされ、物語の場面に巧みに組み込まれています。これは記紀の物語に民間の伝承が利用された代表的な例ですが、記紀には民間の歌や伝承を、物語の興味を増すために編者によって取り入れられたと考えられています。

❖ 伝承も奈良の歴史資源

- 奈良は「語りの文化」の発祥地として、さまざまな伝承が伝わってきたとされます。記紀に関連する伝承・民話はもちろん、庶民が担ってきた生活文化が民話の断片の中に残っており、次代に語り継いでいく必要があります。「伝承」も奈良県の歴史資源の1つとして活用していくことが望まれますが、さらに調査成果の収集や整理に努めていくことが課題です。

❖ 場所や事物にまつわる伝承

- 奈良県には東吉野村に残る「魚見石」のように、記紀や万葉集に記されたエピソードが地域の事物と結びつき、民間伝承として今日まで伝えられている場合も少なくありません。こうした現存する場所や事物にまつわる伝承については、身近な年長者などの口から聞き知った経験を持っている人も多いはずです。

(3) その他「記紀・万葉」関連文献

❖ 記紀・万葉集を補完するサブテキスト

- 記紀・万葉プロジェクトでは、基本的に『古事記』『日本書紀』『万葉集』の3つの文献を中心に据えていますが、ほかにも『風土記』『懷風藻』『日本霊異記』など、記紀・万葉集とほぼ同時代もしくは少し後代に成立した重要な文献がいくつかあります。こうした文献を「サブテキスト」として使い、記紀・万葉集に記された時代やできごと、人物等に異なる角度から光を当てることによって、「記紀・万葉」の世界はより立体的で豊かなものになるはずです。

❖ 風土記（ふどき）

- 風土記とは地方の歴史や文物を記した地誌を意味しますが、一般には和銅6(713)年の元明天皇の詔により各地の国庁から撰進された報告文書を指し、他の風土記と区別して「古風土記」とも称します。地方の地勢や産物、地名の由来、説話伝承などを記録したものです。現存しているものは常陸、播磨、出雲、肥前、豊後の5国で、その他は逸文(『釈日本紀』等の引用文)しか残っていません。『出雲国風土記』はほぼ完本が残っており、その中に「国引き神話」など記紀と異なる神話が収録されています。

❖ 懷風藻（かいふうそう）

- 奈良時代後期に成立した、日本最古の漢詩集です。序文には天平勝宝3年(751)に成立し、先賢の遺風を忘れないよう「懷風」と名づけたと書かれています。「藻」は美しい詩文のことです。撰者は淡海三船(おうみのみふね：大友皇子の曾孫)など諸説がありますが、的証がなく、撰者未詳とされています。近江朝(7世紀後半)以後約80年間における、日本の上流社会の知識人64名の漢詩約120首を収録しています。

❖ 日本霊異記（にほんれいいき、にほんりょういき）

- 奈良時代末期～平安時代初期に成立した、日本最古の説話集です。正式名は『日本国現報善惡霊異記（にほんこくげんほうぜんあくりょういき）』で、選者は奈良薬師寺の僧、景戒(けいかい、きょうかい)です。序文には、仏教の因果応報の理を説くために日本の古記・伝承から実話を収集したと書かれています。奈良時代の話を中心に、全3巻に約120話を収録しており、最も古いものは雄略天皇の時代の話とされています。

(4) 県内のゆかりの地

❖ 県内全域に分布する「記紀・万葉」ゆかりの地

- 奈良県内には、ほぼ全域・全市町村に記紀・万葉ゆかりの地が分布しています。普段の外出の際にちょっと気をつけて路傍を見るだけでも、身近なところにきっとゆかりの地が見つかるはずです。また、古代の遺跡・遺物や万葉歌碑などをテーマにさまざまなガイドマップが作成されており、それらを参考にすればエリアやジャンル、目的等に応じてゆかりの地を探すことができます。

❖ 歩く・なら「記紀・万葉でたどる奈良」

- また、奈良県のウォーキング・ポータルサイト「歩く・なら」でも新たに「記紀・万葉でたどる奈良」のページを開設し、記紀・万葉ゆかりの地をめぐるルートを紹介しています。ぜひ一度ホームページをご覧ください、ダウンロードした地図を片手に県内各地のゆかりの地を訪ねてみてください。そして、記紀・万葉の世界を体感するとともに、政策形成のヒントを探してみてくださいと思います。

「記紀・万葉でたどる奈良」ホームページ <http://www.pref.nara.jp/miryoku/aruku/kikimanyo/>

◎記紀・万葉プロジェクトでは――

■これからも継続して基礎知識情報を提供します。

伝承及び『風土記』『懷風藻』などの奈良とのゆかりの記載情報については、別途『ゆかり事例集』として提供する予定です。そのほか、参考になる書籍などについても、時期を改めて情報提供していきます。

■皆さんからの情報提供をお待ちしています。

皆さんがお住まいの地域やこれまで行ったことがある地域などに、「記紀・万葉」情報はありますか。もし知っている情報があれば、ぜひ、私たちにお知らせください。

例えば・・・

- 県内にこんな記紀・万葉ゆかりの場所がある
- 地域にこんな伝承が残っている、自分が祖父母などから聞いた昔話がある など

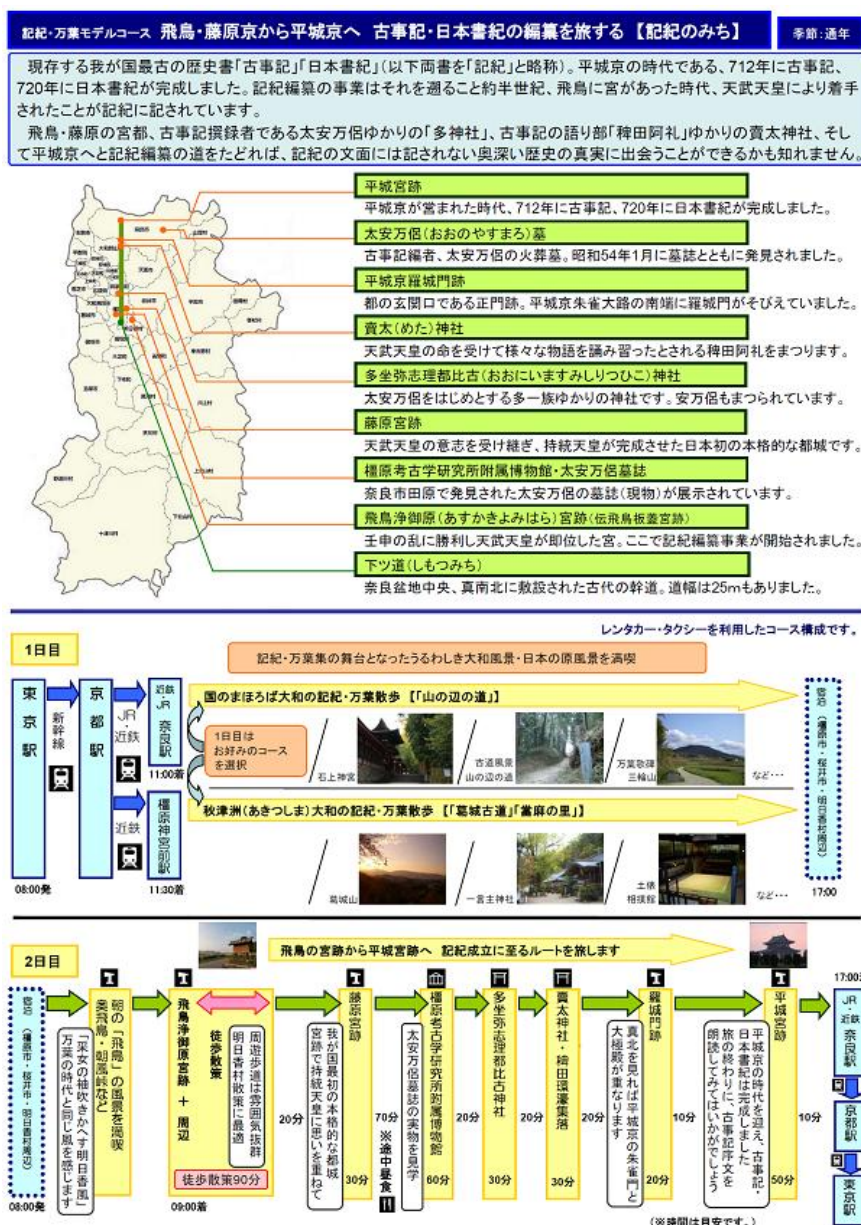
「記紀・万葉」情報をお寄せください！

3. 記紀・万葉を施策に活かすためのヒント

- 記紀・万葉プロジェクトは、「記紀・万葉集に代表される奈良県特有の歴史素材を活用した行政施策を効果的に展開」する取組みと定義されています。ここでは、「歴史素材を活用した行政施策」を具体的にイメージしていただくために、歴史素材を活用した施策・事業事例を紹介します。

事例1 「記紀のみち」ならの魅力創造課

- 「基本構想」に記紀・万葉を活用した事業展開例として掲載した、ならの魅力創造課による「旅行商品化に向けてのモデルコース『記紀のみち』」を事例としてご紹介します。「記紀のみち」は、今回のプロジェクトのテーマに直接関わるコースで、「記紀編纂を旅する」みちとも言えます。



事例2 「大和浪漫回廊 ～万葉集・古墳を巡る～」 道路建設課

- 道路建設課による中和地域周遊キャンペーン事業です。中部・近畿圏のマイカー利用者、主要駅からのレンタカー利用者をターゲットにしたキャンペーン事業である「大和浪漫回廊」の一環として、平成22年度に先駆的に実施されました。
- 同キャンペーンでは、奈良女子大学の監修・協力を得て、明日香・橿原を始めとした奈良県中和地域の6つのエリアにおいて、数多くある万葉歌碑や古墳を紹介する「大和浪漫回廊ガイドブック」を作成し配布したところ、来訪者にエリアの詳細地図・解説を掲載し効率的に周遊できるガイドブックとして活用していただき、たいへん好評でした。また、古墳の概要や基本データを充実させた「古墳カード」も18種類作成し、道の駅等の各ポイントで配布、全種集めるとパーフェクト賞を進呈するなどプレゼントも用意して、来訪者の動機付けとしました。奈良女子大学を始め、県内自治体や道の駅、交通事業者等との連携により可能になった事業と言えます。
- 特に、県の土木部から文化観光局の担当者に対して古墳や万葉歌碑をはじめとした歴史素材についての問い合わせがあり、文化観光局が持っている情報を反映させることで、より利用者に喜ばれるマップや情報発信につなげることができました。歴史素材を活用した、部局横断型の取組みの成功例の1つと言えるのではないのでしょうか。



大和浪漫回廊ガイドブック

事例3 旅行会社による旅行商品の造成 民間事業者

- 一見敷居の高そうな素材である記紀・万葉集ですが、旅行会社向けにこれらの素材を売り込んだところ、平成22年度に旅行商品化され、販売実績も上がっています。

「日本最古の道」山の辺の道を行く

奈良時代から現在まで、山を越えて大和から飛鳥へ通じた。山の辺の道、は日本最古の道。それは、古くから大和と飛鳥を結ぶ重要な交通路であり、多くの歴史的事件が起きた。その歴史をたどる旅、それは、大和と飛鳥の歴史をたどる旅である。

山の辺の道

大和の山を越えて、大和と飛鳥を結ぶ。山の辺の道、それは、大和と飛鳥の歴史をたどる旅である。

おすすめポイント

- 日本最古の道といわれる山の辺の道を、ガイドが導いて歴史を学ぶことができる。
- 奈良の歴史を学ぶことができる。
- 奈良の歴史を学ぶことができる。
- 奈良の歴史を学ぶことができる。

コースNo. 8183

伝説の地・高天彦神社と古代浪漫・飛鳥 現地添乗員同行

神話と古代史に彩られた大和路と古刹参拝

● 壺阪寺・三重塔初層公開と金峯山寺本尊公開は見逃しません。
● 近鉄特急と貸切バスを組み合わせ、効率的に各地をめぐる。

高天彦神社 (イメージ)

壺阪寺 (イメージ)

1泊2日

募集人員 / 各30名 最少催行人員 / 各18名

出発日 11/3(水)・8(月)

旅行代金 / 大人1名様 (単位:円)

	1室3名	1室2名	1室1名
京都駅集合・解散	51,000	54,000	60,000

行程

各地(お客様負担)→京都駅(11:00集合)→(近鉄特急・昼食/弁当)→橿原神宮前駅→○世界遺産・金峯山寺(6年ぶりの金剛蔵王権現像公開)→○世界遺産・吉水神社→○壺阪寺(三重塔初層内陣特別公開/創建以来初公開)→ホテル(17:00頃)

(泊) 橿原 / 橿原ロイヤルホテル(洋室又は和室)

ホテル (8:30頃)→○高天彦神社(神話の伝承地)→○橿原院→○豊麻寺・中之坊(絵天井特別拝観)→あすか野(昼食)→○石舞台→○橋寺(聖徳太子ゆかりの寺)→○飛鳥寺(日本最古の仏像)→○高松塚壁画館→橿原神宮前駅→(近鉄特急)→京都駅(17:50頃解散)→(お客様負担)→各地

※急な法要など寺社の都合により拝観できない場合があります。その場合は他の寺院にご案内しますのであらかじめご了承ください。※ご注意 (P55参照) / (健康) (服装) (交通) (持ち物) (その他) (その他)

上記国内旅行のお申し込み先は、大人の休日予約センターのみとなります。

(株)JR 東海 ツアーズ 50+ (フィフティプラス)

(株)びゅうトラベルサービス

- 担当する施策・事業によって歴史素材の活用方法は異なるとは思われますが、ここにあげた事例をヒントにして、記紀・万葉のそれぞれの施策への活用のしかたを探してみたいかがでしょうか。観光関連施策以外にも、県産品のPRや公共施設の利用率向上など、さまざまな展開の可能性があると思います。

4. 記紀・万葉を取り扱う際の留意点

- 記紀は、我が国の古代史や上代文学の重要な研究対象であることはもちろんですが、神話や天皇家の歴史をめぐるさまざまな学説があり、特に第二次大戦前には皇国史観による国威発揚に用いられた経緯もあって、戦後は広く一般の人びとに親しまれるものではありませんでした。『万葉集』にも戦前は「軍歌」に使われた歌があったりします。したがって、行政として記紀・万葉を「扱う」際には十分留意し、「ニュートラルな立ち位置」を堅持する必要があります。
- 以下に、行政施策として記紀・万葉を扱う際に留意すべきポイントを、聞き取り調査での有識者からのご指摘をもとにとりまとめました。

Point 1

記紀・万葉を多くの人に知ってもらう。

学校教育の場で古典に触れる機会が減り、現代の日本では記紀・万葉集を読んだことがない人が多数派になっています。まず、多くの人に記紀・万葉集の内容やその面白さを知ってもらわなければなりません。記紀・万葉集の中には、一般の人々にも「意外に面白い」と思ってもらえる要素がたくさん含まれており、それらをうまく取り出して提供する工夫が必要です。

Point 2

『古事記』『日本書紀』『万葉集』の違いを踏まえる。

『古事記』は口伝、『日本書紀』は中国を意識した官撰史書、『万葉集』は歌集であり、成立プロセスや編集目的も異なります。3つの書物の違いを踏まえ、それぞれ独立したテキストとして扱う必要があります。どのテキストをベースにするのかによって、同じエピソードを扱っていても内容が異なり、人名や地名等の漢字表記のしかたも違います。テキストの違いを発見することも記紀・万葉を楽しむ魅力のひとつです。

Point 3

歴史的事実と神話・伝承を区別する。

記紀・万葉集では歴史的事実に基づくと推測できる記述と創作された架空の物語が一続きのストーリーになっているため、史実とフィクションをはっきり分けて、混同しない(されない)ようにする必要があります。ただし、フィクションについてもイメージ源となった史実や事物が存在しており、「この伝承はこの場所(できごと)をもとにつくられた」ということが言える場合もあります。

Point 4

記紀・万葉集以外の文献にも目配りする。

記紀・万葉集以外にも日本の古代を知るために欠かすことができない文献があり、対象を記紀と万葉集に限定せず、『風土記』や『続日本紀』などまで広げる必要があります。記紀・万葉集から派生した中・近世以降の創作物まで視野に入れば、さらに展開の可能性は広がります。

Point
5

特定の見解や学説に偏らずニュートラルな立場をとる。

学問分野や研究者によって記紀・万葉に対する基本的な考え方や研究方法が異なり、なかには対立するものもあります。専門家の意見を聞く場合にも、それぞれの学問上の立脚点を押さえておく必要があります。行政としては現時点での「定説」を踏まえ、複数の有力説がある場合には特定の説にくみせず、ニュートラルな立場をとることが肝要です。

Point
6

全国の記紀・万葉ゆかりの自治体と連携する。

記紀・万葉集は奈良県で編纂された書物ですが、神話の中心は出雲や日向、万葉歌は全国に分布するなど、必ずしも「記紀・万葉といえば奈良県」というわけではありません。

記紀では島根県、宮崎県、長野県、福井県、万葉では富山県、鳥取県など、奈良県以外にも記紀・万葉にゆかりの深い府県があり、近隣府県から国外まで含め、さまざまな連携可能性があります。

Point
7

記紀・万葉の世界をイメージできるツールを用意する。

古代の遺跡・遺物には一般の人々が理解し楽しむための要素に乏しく、記紀・万葉の世界を実感してもらうためにはさまざまな補助的ツールを提供する必要があります。

地図やガイドブック、現地の案内板の整備のほか、イラストやCGなど記紀・万葉の世界のイメージをふくらませるビジュアルな情報提供も効果的です。

Point
8

県民が参加して楽しめるものにする。

県内各地域での取組みを支援し、住民が主体となった「県民発」の事業にする必要があります。

「記紀・万葉」を通して、県民に地域の文化や歴史に対して関心を持ってもらうための「きっかけづくり」が行政の役割です。

5. 関連施設・ホームページ

- 県内の文化施設等では、ホームページで「記紀・万葉」に関する各種資料・情報を提供しているほか、企画展示や講演会など多様な普及活動を実施しています。そのうち主要なものをいくつか紹介しますので、「記紀・万葉」に関する相談窓口や情報源としてご活用ください。
- また、図書情報館では「スクラムネット」を通じて「記紀・万葉」に関するお薦め本のブックリストを提供する予定です。最新刊から古典まで、様々なジャンルの書籍が紹介されていますので、この機に「記紀・万葉」についてより詳しく知りたいと思われた方は、ぜひ参考にしてください。

スクラムネットの詳細については、下記のページをご覧ください。

<http://intraweb.office.pref.nara.lg.jp/ky-tosho/index.html>

- 施設やホームページ、書籍等の情報については今後充実させていく予定です。お薦めの「記紀・万葉」に役立つホームページや施設、書籍等があればご紹介ください。

「記紀・万葉」関連施設

- **奈良県立万葉文化館、万葉古代学研究所** <http://www.manyo.jp>

TEL:0744-54-1850 / FAX:0744-54-1852

- **奈良県立図書情報館** <http://www.library.pref.nara.jp>

TEL:0742-34-2111 / FAX:0742-34-2777

- **奈良県立橿原考古学研究所、同附属博物館** <http://www.kashikoken.jp/>

TEL. 0744-24-1101 / FAX. 0744-24-6747

- **奈良県立民俗博物館** http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1508.htm

TEL:0743-53-3171 / FAX:0743-53-3173

- **奈良文化財研究所、同飛鳥資料館** <http://www.nabunken.go.jp/>

(本館) TEL. 0742-30-6733 / FAX. 0742-30-6730 (飛鳥資料館) TEL. 0744-54-3561 / FAX. 0744-54-3563

「記紀・万葉」関連ホームページ

- **リサーチ・エンジン on 奈良** (県立図書情報館) http://www.library.pref.nara.jp/search/google_coop.html

奈良の歴史・文化関連 Web 情報をキーワード検索できる。ほかに同館ホームページ「ふるさとコーナー」から『大和名所図会』等館所蔵古文書・古絵図のデジタル画像が閲覧可能。

- **小・中学生の勉強室** (県立橿原考古学研究所附属博物館) <http://www.kashikoken.jp/museum/school/school.html>

子ども向け学習教材。古墳、埴輪、飛鳥京跡、木簡などをテーマとしたワークシートのほか、「考古学おもしろブック」に古墳時代、奈良・飛鳥時代についての解説がある。

- **チャレンジ・ザ・万葉** (県立万葉文化館) www.manyo.jp/heiseimanyo/quiz/index.html

万葉仮名、歌人、故地など万葉集にちなんだ4種類のクイズ。

- **大和路アーカイブ** (奈良県ビクターズビューロー) <http://yamatoji.nara-kankou.or.jp>

「寺社・古墳」のカテゴリーで、エリア別に県内の御陵、墓、古墳・塚を写真と解説で紹介。

- **奈良の魅力映像 BOX～奈良の魅力まるごとガイド～** (奈良県広報広聴課) <http://www.miryoku.pref.nara.jp/>

記紀・万葉ゆかりの寺社や古道、祭礼・イベント等を動画で紹介。エリア、カテゴリー、季節・月別検索可能。

- **万葉歌碑めぐり歩き** (奈良県ならの魅力創造課) <http://www.pref.nara.jp/kanko/manyo/>

市町村別の歌碑(歌)一覧、作者や揮毫者、歌の現代語訳・英語訳、現地・歌碑の写真等の歌碑の詳細情報、エリア別ガイドマップなど。

- **歩く・なら** (奈良県ならの魅力創造課) <http://www.pref.nara.jp/miryoku/aruku/>

県内のウォーキング・ポータルサイト。推奨ルートとして「古道・古街道」「陵墓・古墳を訪ねて」「伝記・伝説・ものがたりの道」など、記紀・万葉に関連するルートマップを紹介。

6. 記紀・万葉プロジェクト検討委員会、 同 推進チーム会議

- 基本構想及び本基礎知識集の策定にあたっては、平成 22 年 2 月に県庁内の推進機関として「記紀・万葉プロジェクト検討委員会」及び同委員会の実務組織である「記紀・万葉プロジェクト推進チーム会議」を設置し、調査・検討を行いました。なお、同検討委員会及び推進チーム会議については、平成 23 年度以降も引き続き本プロジェクトの推進にかかる調査・検討にあたる予定です。

■記紀・万葉プロジェクト検討委員会・検討委員及び顧問

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

役 職	所 属	職・氏名	
座 長 検討委員	文化観光局	局 長	廣野 隆信
	文化観光局	次 長	寺田 豊
	観光振興課	課 長	森藤 勝彦
	奈良県ビジットーズビューロー	参 与	三浦建史郎
	ならの魅力創造課	課 長	村上 伸彦
	国際観光課	課 長	奈良 和美
	文 化 課	課 長	稲村 和子
	万葉文化館	業務部長	森川 和昭
	図書情報館	副 館 長	尾登 政司
	農 林 部	次 長 (耕地課長事務取扱)	前田 健次
	土 木 部	次 長 (企画管理室長事務取扱)	清水 義則
顧 問	教育委員会 文化財保存課	課 長	石川 幸司
	教育委員会 橿原考古学研究所	副 所 長	前田 智子
	万葉文化館	館 長	中西 進
	図書情報館	館 長	千田 稔
	橿原考古学研究所	所 長	菅谷 文則

■記紀・万葉プロジェクト推進チーム会議・チームメンバー

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

役 職	所 属	職・氏名	
リーダー メンバー	ならの魅力創造課	課長補佐	谷垣 裕子
	観光振興課	主 査	杉村 和彦
		主任主事	大西 洋亮
	ならの魅力創造課	調 整 員	上村 乃太
		主 査	石田 昌史
	国際観光課	主 査	野田 康彦
	文 化 課	主 査	森本 理
	万葉文化館万葉古代学研究所	主任研究員	井上さやか
	図書情報館	調 整 員	乾 聰一郎
	農林部企画管理室	係 長	吉田 和嗣
	耕 地 課	主 査	山崎 克典
	道路・交通環境課	主 査	松田 拓士
	橿原考古学研究所	埋蔵文化財部長	西藤 清秀
		総括研究員	今尾 文昭

◎編集後記◎

私たちはこの基礎知識集を「できるだけコンパクトにまとめる」ことを目指して編集しました。少しでも「記紀・万葉」に興味を持てただけででしょうか。お目通しいただいた感想を、ぜひお寄せください。

また、「より深く知りたい」「施策に歴史を活かすヒントについてもっと調べたい」と思われた方には、より詳しいご説明や資料をご提供したいと考えておりますので、お気軽にお問い合わせください。

◇問い合わせ先：記紀・万葉プロジェクト推進チーム会議
(事務局：ならの魅力創造課)